

靖国神社って何？「参拝」何が問題？

首相は「国に殉じた人に尊崇の念を」言うが…

安倍晋三首相の靖国神社参拝めぐって、NHKなど一部のメディアが「『不戦の誓い』をした」などという首相の説明を無批判に流している。靖国神社とは何か、首相の参拝がなぜ世界から厳しい批判をあびるのか、問題の根本を説き明かした報道はほとんどみられません。靖国神社のそもそもの知れば、首相の参拝が「内政問題」や「内心の自由」では絶対に片付かない、深刻な問題であることがはつきり見えてきます。

戦前・戦中はどんな施設 戦争動員の精神的支柱

靖国神社は、明治時代の1869年、新政府軍と旧幕府側との間で戦われた戊辰（ぼしん）戦争で戦死した軍人をまつるために創建された「東京招魂（しょうこん）社」が前身です。79年に「靖国神社」へと改称。「別格官幣（かみべい）社」という特別の社格を与えられ、国家神道の中心的神社と位置づけられました。

一般の神社とは異なり旧陸軍、海軍両省が管理する軍事的宗教施設でした。明治維新からアジア・太平洋戦争までの戦没者240万人余をまつっています。いづれも「天皇のため」にたたかっていた軍人・軍属だけです。

このため、西南戦争（1877年）で天皇に背いた「賊軍」の西郷隆盛や捕虜となつて病死した兵士、原子爆弾や空襲の民間犠牲者、旧「満洲」など外地で死んだ一般国民などはまつられていません。天皇制政府と軍部は、天皇への「忠義」を尽くして戦死し「靖国

の英霊」になることを最大の美德として宣伝。靖国神社を、侵略戦争に国民全体を動員するための精神的な支柱として持ち上げました。

安倍首相は、「国に殉じた人に尊崇（そんすう）の念を示す」などと繰り返しています。しかし、靖国神社への合祀（ごうし）は、天皇のためにたたかかって死んだかどうかにかかわらず、死者を選別することに本質があります。また「英霊」としての合祀は、戦死者や遺族の意思に関わりなく行われます。戦争遂行や侵略戦争美化の「道具」として人の死を利用するとは、戦争犠牲者を冒とくするものではないでしょうか。

戦後果たした役割 戦争美化する発信地に

靖国神社は戦後、信教の自由や政教分離を厳格に定めた日本国憲法のもと、一宗教法人となりました。しかし、「日本の行った戦争は正義の戦争だった」とする特異な戦争観を「国論」とするための策動が、同神社を中心に続けました。「国家護持」や天皇・首相などの「公式参拝」を求める運動などです。

とりわけ、1986年に同神社の付属施設・遊就館（ゆうしゅうかん）が再開されると、日本の過去の侵略戦争を美化・正当化する「靖国史観」の宣伝センターの役割を強めていきます。

遊就館は、「近代史の真実」を学ぶパネルや「英霊」の遺書・遺品、当時の兵器を展示している軍事博物館です。いまでも、「先の大東亜戦争」は、わが国の自存自衛と人種平等による国際秩序の構築を目指すことを目的とした戦いでありました」（3月から靖国神社が開く「遊就館特別展 大東亜戦争七十年展Ⅲ」の案内チラシ）などと公然とのべています。

こうした靖国神社の本質は、小泉純一郎首相（当時）らの度重なる参拝や神社の実態を批判した日本共産党の不破哲三議長（同）の講演（05年5月）をきっかけに広く知られるようになり、国内外のメディア・世論から「軍国主義の過去を再評価しようとする動きの象徴的中心」（米紙）などと厳しい批判が起りました。

07年には、遊就館の展示パネルを一部改修。太平洋戦争が「資源に乏しい日本を、禁輸で追い詰めて開戦を強要」したルーズベルト米大統領の陰謀だったかのように描いた「反米」的な部分を削除しましたが、先のチラシのように戦争を賛美する本音は隠しきれません。

首相の参拝は、日本の過去の侵略戦争を肯定・美化する靖国神社の立場に自らを置くことを意味します。それは、日独伊のファシズムと侵略戦争を断罪した戦後の国際秩序への挑戦とみなされるのです。

戦争指導者を「神」 国際社会への公約違反

靖国神社は1978年に、東京裁判（極東国際軍事裁判）でA級戦犯とされ処

刑された東条英機元首相ら14人を合祀しています。

A級戦犯とは、東京裁判で、侵略戦争を計画・準備・開始・遂行した「平和に対する罪」（a）、占領地での殺人や捕虜への虐待などの「戦争犯罪」（b）、「人道に対する罪」（c）などすべての罪で裁かれた犯罪人です。一般将兵がbとcの罪に問われた「BC級戦犯」と区別し、A級戦犯と呼びます。

安倍首相の祖父、岸信介元首相も東条内閣の商相などを務めたA級戦犯容疑者でした。

靖国神社は、このアジアと日本の国民に多大な犠牲を強いた戦争指導者を「神」としてまつっているのです。実際、遊就館には「靖国の神々」のコーナーでA級戦犯の東条元首相らの写真を展示しています。

A級戦犯合祀の理由について、宮司だった湯澤貞氏は、同神社の崇敬者総代会で「A級戦犯だけ合祀しないのは極東裁判（東京裁判）を認めたことになる」との意見もあり、合祀が決まったと語っています（『正論』05年8月号）。合祀の狙いは、日本の戦争を侵略と断罪した東京裁判を否定する意思を示すためなのです。

日本は、米国など連合国と結んだサンフランシスコ平和条約（51年調印）で東京裁判を受け入れており、同裁判を否定することは国際社会への公約に反することです。

A級戦犯合祀が明らかになって以降は、昭和天皇も現天皇も同神社を参拝していません。

2014年1月11日（土）

保育料を完全無料に 鳥取・若桜町 4月から

鳥取県若桜（わかさ）町は、今年4月から認定子ども園の保育料を完全無料にする意向を示しました。同町は、第1子から無料にするのは、全国初とみられる、としています。



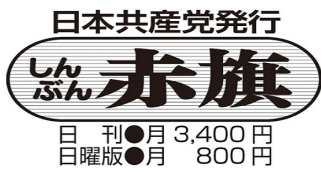
同町では、昨年から幼稚園は廃園になっており、唯一の保育園である認定こども園「わかさこども園」には現在、43世帯54人が通園し、保護者の払う年間保育料は約890万円。県が新設する保育料無料化制度を活用して、経費の半分を県の助成で賄う予定で、町の負担は約400万円になります。

町民福祉課によると、若者夫婦の転出傾向がつづいており、若者定住策として期待が高まっています。

日本共産党の中尾理明町議は「町は子育て支援に力を入れており、党としても後押ししたい」と話しています。2014年1月11日（土）

磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 862-7 0745-43-2415
吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 113-5 090-5257-4446
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 281-1 0744-33-8570
（事務局）池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 440-5 0745-43-2661



多神社の大とんど

去る十二日(日)多神社のイベント「灯の路と大とんど」があり、私は友人と参加しました。境内にははっぴを着た役員さん、そして大勢の老若男女で活気に溢れていました。フラフープ、竹ぼっくりなど子ども達が楽しく遊べる事や田原本を知るパネル展示、講演会など豊富な内容のイベントで、準備された方々の苦労がうかがわれました。

私達はどうと美味しくいせんざい、トン汁、甘酒に舌鼓を打ち、体も心もほっこりさせて頂きました。

資料館には土器の他、おみこしや太鼓など古い物が大切に保存されており、感動しました。幼稚園児が絵を描いた

紙袋の灯籠が境内に、田のあぜ道には竹の灯籠が等間隔に置かれ、幻想的な雰囲気をかもし出していました。

やがて夕闇が迫り、月も白く光る頃松明の行列が現れ、高く組まれたとんどに点火されると一気に大きな火柱が上がり、火の粉が降りかかってきました。

小さな子は「大火事や!」と見たことも無い炎に驚き、大人は歓喜の声をあげていました。私も我が家のしめ縄を持って行き、空高く燃え上がるとんどを見ながら、今年一年皆さんが平穏で幸せに過ごせますようにとお祈りしました。

田原本議会
議員
森 良子



無人駅ウオッチング

近鉄の無人化になった(12月21日)駅の視察を共産党奈良中南和地区の関係議員団は10日、行い、利用者や住民から無人化になってからの意見を聞きました。私も参加したので報告します。

石見駅では、高校生が改札機に定期券がつまり家族に電話で相談していました。そこでインターホンで問い合わせが出来ることを知らせ、解決することができました。石見駅では、すぐに駅係員が裏から出てきて対処。駅係員は「当分の間常駐している」と言っていました。

また、石見駅の券売機については、5千円札、一万円札が使えない状態になっていました。イン

ターホンでいちいち呼び出さなければならぬ状態になっていきます。

室生口大野駅や三本松駅は道路より高いところに駅がなっているにも関わらず、バリアフリ化がされていませんでした。また利用駅とも電車と駅のホームの間が約20センチ近く開いている実態も明きらかにありました。

三本松駅では駅のホームや近くの明き民家が無法地帯になっていると住民の方は言っていました。この方は無人化について自民党の議員に言ったが聞いてくれなかったとも言っておられました。

大福駅ではスロープがあるが凸凹になって危険な状態になっていました。三宅町 池田年夫



ごみの収集大丈夫?

年末年始は通常より多くのゴミが出ます。特に、年始は約一週間分のゴミが出されます。

去年の一月七日(月)は七十七トンの可燃ごみを収集されました。今年の一月六日(月)は七十三トン、七日(火)は七十三トンの可燃ごみを収集されたそうです。ごみ収集車一台あたり六回も収集に回ったことになりました。本当にご苦労様でした。

こんなに大変な状況なのに焼却場が御所に移ったら、本当に集めることができるのか?心配なところでは、町の答弁では、ごみ収集車一台あたり一日に三回しかごみを集められなくなります。ごみ

収集車は、集めたごみを空っぽにしないと次のゴミを集めることができなからずです。

昨年三月議会で質問した時は、「できるかぎり収集業務の低下にならないよう努めてまいりたい」「一次的に増加するのでレンタル等で対応」などその場しのぎの答弁で、まったく検討されていないことが判明しました。五台も六台もレンタルできるのか?人の確保ができるのか?具体的で責任ある検討をすることが住民に対する町の責任です。

田原本議会
議員
吉田容工



視点の心得

一月も三週目に入りましたね。ここに来てようやく日の入りが伸びた事を感じるのではと思っておりますが、どうでしょう。ちなみに明けるのは、一月十五日辺りが底です。今が一番遅い時期になっていきますね。日照時間が延びている事を実感できるのも、もう少しですね。

この時期、町の行事では年始交歓会、消防の出初式、そして成人式と続きます。正月明けの年中行事の一つですが、それぞれの皆さんの節目となる大事な取り組みですね。さて、私も町議会に送って頂いて二十四年目に入ります。この間、三人の町長と議論を重ねて参りました。皆さん、住民の

皆さんの暮らしを支えるべく、それぞれの視点からお述べですが、共通して出てくる観点と云いますか、言葉が有るんです。『公平公正』と『持続可能』です。至極当然では有りますが、捉え方次第では、施策の本身に違いが生じてしまいます。

私は、公平公正とは、力に応じた応分の負担で有り、その益は力に関係なく等しく受ける事。持続可能とは、それを維持するために財源を工面する事であって、財源の為に施策の緩和は論外だと心得ます。皆さん、如何でしょうか。

川西町議会
議員
芝 和也

